

ジェームズ・テニー：七重奏曲

ジェームズ・テニーは、20世紀アメリカの現代音楽の作曲家・音楽理論家。作曲をジョン・ケージに師事し、ケージからも信頼されていた。1980年代に創作の全盛期を迎え、本曲は1981年、6台のエレクトリック・ギターとエレクトリック・ベースのために書かれた。

マウロ・ヘルティヒ：ピン・ポル

マウロ・ヘルティヒは、ニューヨークを拠点に活動するスイス出身の新進作曲家。室内楽からサイトスペシフィック（特定の場所における演奏に限られた音楽）な作品まで、幅広いジャンルを手掛けている。本曲は、スチール弦のスライドギターのために2015年に作曲。10分ほどの作品で、作曲者自身により初演された。

ハヤ・チェルノヴィン：風変わりな騎士

ハヤ・チェルノヴィンは、アメリカで活動するイスラエル出身の現代音楽作曲家。彼女の音楽は、ノイズと楽音との狭間を行くような作風で、特殊奏法も多く用いられている。エレクトリック・ギターとアコーディオンのために書かれた本曲は、「パリ北駅」とスイスの四重奏アンサンブル「ニッケル」の委嘱による、2015年の作品。

シュテファン・バイヤー：顧客のほとんどは戻ってくる

2017年度の武満徹作曲賞で第2位に入賞したシュテファン・バイヤーは、独ブラウンシュヴァイク出身の新進作曲家。本曲は2013年の作品で、エレクトリック・ギター、様々な物質、録音テープを用いて演奏される。

キャシー・ファン・エック：ソング No.3

キャシー・ファン・エックは、日常的な物と音響と人間との関係を追究するサウンドアーティスト。2010年に作曲された本作品は、口元に取り付けられたスピーカからの音響が、手にしたマイクによってフィードバックされるが、そこに演奏者の身振りが加わることによって音響が変化していく。

ベン・ワイリー：An inequality : wind flower

ベン・ワイリーは、カナダ・バンクーバーを拠点とする作曲家、サウンドアーティスト。チューニング・システムに関わる作品が多い。本曲は2013/18年に作曲された2本のエレクトリック・ギターによる微分音音楽。調弦をずらした2本のギターにより、音階の狭間にある茫洋とした微分音の世界の探究が試みられる。

S.ライヒ：エレクトリック・カウンターポイント

スティーヴ・ライヒは、いわゆる「ミニマル・ミュージック」を代表するアメリカの作曲家。本曲は 1987 年の作品で、ライヒの「カウンターポイント」シリーズの第 3 作。Fast/Slow/Fast の 3 楽章からなり、テープに録音されたギター・ベースにリアルタイムで演奏されるギターが加わる。